

銀座水族館(七つの海の魚および水産切手)



— 26 —

東京支店 神原 勇

カワカマス

分類 サケ目 カワカマス科
 学名 *Esox lucius*
 英名 Pike
 和名 カワカマス・パイク

カワカマス類は北半球の温帯・亜熱帯に広く分布し、南半球には全く分布しない。緩やかな河川や湖沼の水草の良く繁茂した浅瀬若しくは浅い所に生息し、冷水性の淡水魚であるので冬季には氷結した水面の下部に潜み、春の訪れを待つ。

体色はオリーブ色か暗緑色の地色に、蛇の縞のような薄黄色のまだら状の模様が体側面に広がっている。体長1.5m・体重30kgに達する大型の種属でその体形は細長く、水草の間にじっと獲物を待っているときは時として流木の如き感を与えないでもない。背鰭は尾鰭近くにあつて臀鰭と上下に略々対称の位置にある。頭部は眼の前方がやや凹んで、スコップのような形をしている。このやや凹んだ口吻から頭部及背部にかけてなだらかな流線型が後方の尾鰭近くの背鰭にまで延びている。

獲物は淡水魚類特にコイやマス等を好んで捕食するほか、カエルやアヒル、水辺の鳥類、時には河川・湖沼をうろつくネズミ等、魚類・両棲類・鳥類・哺乳類等自分の口の届く範囲のものは種別を問わず捕食する。胃袋は伸縮自在で自分と同じ位の大きさのものを飲み込んだ事も報告されている。口は大きく裂けて下顎には上方に真直ぐに向つた強く頑丈な歯が立ち並び、上顎には比較的吻先端附近に歯が集まり後方即喉の方向に傾いて並んでいるので、一旦捕えた獲物は喉の奥の方へと送りこまれるので逃げられない仕組となっている。あまりにも大きく飲みこめない程のものを捕え、

口にくわえると上下の各顎の構造が獲物を外さないように出来ているため、カワカマス自身が喉を塞がれて窒息死する事が観察記録されている。

カワカマス類は水草の良く繁茂した浅い所にじっと静止していて獲物の接近するのを待つ。数m先に獲物を視覚により認めると、背鰭と臀鰭を強力にあおつて全速で襲いかかり捕食する。水を切って突進するさまは、待機していたときはうってかわつて敏捷そのものである。カワカマスの脳はさほど大きくはないが、脳の大部分が視覚を司る視葉で占められ良く発達している。視覚器である眼は体の大きさに比較して寧ろ小さい位である。

全世界の海洋に生息するサメ類が専ら嗅覚により獲物を物色するのに対し、本属のものは視覚により攻撃を加える。海のギャング「サメ」に対し、ヨーロッパではカワカマス類を「淡水のサメ」と称し、淡水魚の中で最も猛猛なる魚類とされている。

コイ・マス等重要魚類を捕食するので、水産上害魚とされているが、最近の世界的なる河川・湖沼の公害によりその資源は年々減少の一途をたどっている。肉は美味でスポーツフィッシングの対象魚として全世界の釣りファンの垂涎的である。

北アメリカ五大湖周辺には同属のマスケランジ (*Esox masquinongy*) が分布するが、体長2.4m・体重50kgに達する超大型淡水魚である。

カワカマス

分類 : サケ目 カワカマス亜目 カワカマス科
 学名 : *Esox lucius*
 英名 : pike
 和名 : カワカマス・パイク

北半球の温帯・亜熱帯に広く分布し、日本では産しない。川や湖沼の水草、藻類の繁茂した浅瀬に生息し、体は細長く頭部は平ラテスコップ状の形状を有する。大きく裂けた口は強く鋭い歯が並ぶ。主食はコイ・マスなどの地魚類、両生類、哺乳類、鳥類、水産上害魚とされる。北半球で最もドツモウな淡水魚である。体長1.5m 体重30kgに達し、肉は美味、スポーツフィッシングの対象魚である。



ユーゴスラビア -1967-



カメルーン -1968-



ポーランド -1958-



ハンガリー -1967-



フィンランド -1953-



チェコスロバキア -1966-